[**フランシスコ教皇メッセージ、2016年ダボス会議**](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/messages/pont-messages/2015/documents/papa-francesco_20151230_messaggio-wef.html)

**第四次産業革命**

2016.12.05 rev.3　和英混訳：齋藤旬　訳註ないし補遺を（）で示した。

クラウス・シュワブ　ダボス会議議長　殿

教皇フランシスコ

何よりもまず感謝を表します。「[第四次産業革命](http://llc.a.la9.jp/Papers/IR4/The%20Fourth%20Industrial%20Revolution%20by%20Klaus%20Schwab%20fd02.docx)をマスターする」を主題にこの1月末ダボスで開催される世界経済フォーラムでお話しする様お招き頂き有り難うございます。この会議が実り多いものになること、即ち建設的な対話が、政府、事業、市民リーダー達および政治、金融、文化の代表者達によって行われ、社会的環境的responsibility（呼びかけに応じる責任）が途切れることなく奨励されること、このことを心から望みます。

　さて、いわゆる「第四次産業革命」が始まり、jobs（人が関わる仕事）の多くが今後劇的に減少するのは避けられないという感覚が強まっています。他方既に現在でも、何億人もの失業者が存在することがILO（国際労働機関）の最新の研究によって明らかです。同邦人達の経済も世界の経済も（見境なく）、financialize（効用関数（utility function）で価値を計測する経済に）されtechnologize（技術偏重のために人間性が損なわれた経済に）されたために、labourの分野に広範囲に及ぶ変化が生じています。即ち、useful且つdignifiedな雇用機会は減少傾向にあり、これが社会保障の先細りと相まって、様々なcountriesにおいて格差と貧困の憂慮すべき悪化が起きています。従って私達が今後為すべきことは極めて明らかです。先進的technologiesの開発を進める一方で、その先進的technologiesを使って、社会全構成員のためのdignified workを創造し、social rights（社会の中で人間らしく生きる権利）を強固に支持しつつ環境も保護する。こういったことがcapable（特有のtalentによって可能）な新モデルのdoing businessを創造することです。つまり人類は技術進歩による社会発展を主導すべきなのであって、これに支配されることはあってはならないのです！

　貴会議参加の皆さんに今一度お願いします。「困窮者達を忘れないで下さい！」　これは、これからのbusiness worldにおけるリーダーである貴方達にとって第一優先課題です。「既に文化生活を享受する手段を持っている者達は特権に一喜一憂するのでなく、自分達よりも貧しい者達が尊厳ある生活環境を得られるよう助けなければなりません。特に彼らが、人的、文化的、経済的、社会的な潜在力を開発できるように助けなければなりません。」【中央アフリカ共和国首都バンギ市における、市民および事業者リーダー達と外交団への挨拶、2015.11.29】

私達は決して、繁栄の思想に腐心してはなりません。それは私達のcapability（特有のtalentによる行為能力）を奪い、「貧しい人々の叫びに共感を持つことも、他の人々の痛みを感じて泣くことも、それらの人々を助ける必要性を感じることもできなくしてしまいます。あたかも、それは誰か他の人がresponsibilityを負うべきこと、私じゃない、かの如くです。」【[*Evangelii Gaudium*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html) 54】

　他の人々の痛みを感じて泣くこと。これは、苦しみを分かち合うことだけを言っているのではありません。それよりもむしろ、この様なinjusticeと格差の原因が私達自身の行為にあると気付くことを言っているのです。「目を見開きましょう。尊厳を否定された兄弟姉妹が負った幾多の傷の深さ、この世界の惨状に真正面から向き合いましょう。耳も傾けましょう。助けを求める彼らの叫びに私達の心は反応し始めているはずです。このことに早く気付きましょう！　そして祈りましょう。どうか私達の思い、支援の手が彼らに届きます様に。私達が暖かく寄り添っていること、私達の友情と友愛、これらが彼らに届きます様に。彼らの叫びが私達自身の叫びになります様に。そして、私達の偽善と利己心を隠してしばしば猛威を振るう無関心の壁を、彼らとともに力を合わせて引き倒すことが出来ますように！」【慈しみの大聖年の大勅書[*Misericordiae Vultus*](https://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_letters/documents/papa-francesco_bolla_20150411_misericordiae-vultus.html) 15】

　このことに気付けば、私達はもっとfullyにhumanとなるはずです。なぜなら、兄弟姉妹に向けたresponsibilityは、私達のcommon humanityの最も重要な部分だからです。これらの困窮者達に自分達の心と精神を開放することを恐れてはいけません。心と精神を開放すれば、自分達が持つ経済的技術的talentsを使いこなすfreedomを獲得し、真のhappinessに満たされた生活を見出すでしょう。これは決して消費主義によっては実現できません。

時代を画す根本的な変化の時を迎えました。これに直面する世界を導く立場にある者達は、来るべき「第四次産業革命」、即ちroboticsと科学技術innovationの帰結、これが決してthe human personを破壊しないよう確実に導く課題を課されたのです。即ち、the human personをa soulless machineに置き換えてはいけません。また、私達の惑星を一握りの富裕層が享楽に耽溺する空しい庭園に変えてもなりません。

見方を変えれば、現在進行中の過程をguide and governできるこの貴重な機会をとらえて、人間の尊厳、寛容、共感、慈しみを基礎においた包摂的社会を構築することができるでしょう。この場合私のお勧めは、“our common home”であるこの惑星の上にどの様に未来を築いていくのかに関して、改めて話し合いを再開することです。そしてこの場合私のお願いは、力を合わせて持続可能で統合的な発展を追求することです。

　しばしば言及してきましたし、またこの場をお借りして繰り返しますが、businessとは「a noble vocation（高貴な召命）、即ちこの地上世界を改善し豊かさを生み出すよう方向付けられた召命」です。また「もしそのbusinessが、共通善に仕える不可欠な部分としてthe creation of jobsをとらえているならば」【[*Laudato Si’*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html) 129】とりわけ高貴な召命なのです。つまり本来businessそれ自体が、社会問題と環境問題の複合危機を克服し貧困と闘おうとするresponsibilityを基本的に有しています。従ってこのresponsibilityが全うされるならば、多くの人々の不安定な生活環境を改善し、そうしたsocial gap（社会の断絶）に橋渡しを行うことが出来ます。このsocial gapこそ幾つものinjusticesを生み出す元凶です。従ってそこに橋渡しすることによって、equality, justice and solidarityといった社会の基本的価値を回復できるのです。

　この様にa noble vocationにrespondするという望ましい形の対話を通じて、この世界経済フォーラムは、「もっと健康的で、もっと人間らしく、もっと社会的で、もっと統合的な」【[*Laudato Si’*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html) 112】社会発展を達成するための創造活動を防衛し保護するa platformとなることができます。これは、2015年9月25日の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に明記された貧困撲滅努力の最大化にとっても、また、COP21（気候変動枠組条約第21回締約国会議）で2015年12月12日採択された「パリ協定」に明記された環境目標にとっても、the need（必要なこと）でありdue regard（法律的に正当な敬意を払うべきこと）でもあるのです。

　シュワブ議長殿、これから開催されるダボス会議が成功するよう私は改めて願いつつ、議長、参加者の皆さん、ご家族に神の豊かな祝福があるようにお祈りします。

From the Vatican, 30 December 2015

FRANCISCUS

【訳者解説】

　2009年の『野の百合』にカトリック社会思想（CST）の紹介を載せてから7年経ちました。2009年と言えば米国でオバマ政権が誕生し、少し遅れて日本に民主党政権が誕生した年。時代は好転するのでは、と期待して毎年の様に『野の百合』でCSTを紹介しました。

しかし日本の民主党政権は2012年末には崩壊し、替わって、平和憲法を軽視し国債を紙幣に変える「財政ファイナンス」という禁じ手に手を染める自民党安倍政権が出てきてしまいました。また今年11月の米大統領選挙では、「壁を作る者はキリスト者ではない」とフランシスコ教皇が批判したトランプが次期大統領に選ばれてしまいました。その少し前には、英国がEUから離脱することが決まりました。どうやら排除、無関心の壁、相互不信、social gapの重苦しい混迷時代が始まってしまったようです。

私はこんな時代だからこそ敢えて、フランシスコ教皇の言葉を今年の『野の百合』に載せることにしました。2014年に続き2016年ダボス会議の教皇冒頭挨拶メッセージです。この2016年ダボス会議では、重苦しい混迷の奥底には、経済政治社会systemの根本的刷新を人類に迫る空前絶後・前代未聞の「第四次産業革命」 -- 即ちroboticsと科学技術innovationの帰結へと向かう変化、があると考えます。

この会議冒頭の教皇メッセージの核心が「the human personをa soulless machineに置き換えてはいけません。また、私達の惑星を一握りの富裕層が享楽に耽溺する空しい庭園に変えてもなりません。」であるのは確かです。しかし、教皇は第四次産業革命に反対しているのではありません。むしろ、「この貴重な機会をとらえて、人間の尊厳、寛容、共感、慈しみを基礎においた包摂的社会を構築しましょう」と呼びかけています。つまり、第四次産業革命をその様にpositiveに進めることが可能だと考えています。

これに応えて私は、トランプや安倍政権に各論的に異を唱えるのでなく、彼らの様な異常な意見が出てきてしまう根本的原因を知り、それらに対し「免疫」を持つ根本的に新たなvalues（価値観）を備えた経済政治社会system、即ち教皇の言う所の、人間の尊厳、寛容、共感、慈しみを基礎においた包摂的社会を構築する側に立ちたいと思います。

私は2017年4月で60歳になります。35年間の会社勤めを終えます。その後はカトリック社会思想や第四次産業革命などの研究に専念します。定期的に勉強会も開催しようかと考えています。興味のある方はお声をおかけください。多くの方と学び合えたら幸いです。